

「価値なき者への選び」

ルカ2:8~15

■ パンダ？ひと？

パンダの目の周りに黒い毛がなかったらどう見えますでしょうか。私たちが思うような可愛いパンダではいられなくなります。では、その黒い毛が私たち人にあつたらどうでしょうか。むしろ怖く見えてしまいます。このように、本当の自分を見失い、隣の人を見ながら自分のこのようになった方がいいのではないかなど思うことはあるかもしれません。

これはパンダの黒い毛を私たちが持っているように、偽りの姿をあこがれるようなことです。クリスマスはこの偽りの心に変化をもたらすためにあるものではないかと思えます。

■ 今日の御言葉

【ルカ2:8~15】

さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。2:9すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。2:10御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。2:11きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。2:12あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」2:13すると、たちまち、その御使いといつしよに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。2:14「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」2:15御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合った。「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。」

■ 価値なき者への選び

「羊家飼い」のことをあだ名で「くだらない」と呼ばれるくらい価値がない人として思われていました。住民として数えられない、選挙権もない、そして、彼らの言葉は力がありませんでした。イエス様は世の中で「くだらない」と差別されるような人たちに最初にイエス様がこの世に来ることを知らせました。

このように神様は人が見過ごしてしまうような、捨ててしまうような事を尊ばれます。

しかし、これは価値がない者を神様が尊ばれるのではなくて、価値あるものを私たちが見られなくなってからです。ダビデも、アブラハムも羊飼いでした。そして、主の祭壇に捧げられる為の羊を飼う者達は、本来尊ばれるべき仕事でもあるのです。人々はこのように、忘れ価値のないものとしてしまうのです。

私たちの姿がこのようなものです。本当にあなたが今しようとしている事は正しいのか？それを顧みる事がクリスマスなのです。

このように本当の自分の姿を見失い、人と比べていることはないでしょうか。私たちの目から見ると、神様のなさったことは普通とは真逆でした。私たちは何かを伝える時、トップダウンが通りやすいと思っています。しかし、神の方法は人々の中で一番底辺にあるとされる羊飼いに福音を伝えました。これは羊飼いだけに伝えたからではなかったかもしれません。指導者たちは本当に価値あることを見逃していたかもしれません。

ある世界で指三本に入るような有名なバイオリニストがニューヨークの道端で演奏しました。ストリートミュージシャンのような恰好で演奏したら、みんな分からずに普通のストリートミュージシャンのように接し、ばらばら見ていなくなるだけでした。

このように人には本当の価値が分からないことがあります。見ているものが違うのでできないだから私たちは心の色々な自分の計画を一旦置いて、神様の計画を求める必要があります。

箴19:21『人の心には多くの計画がある。しかし【主】のはかりごとだけが成る。』

■ HIVの子どもを預かったアグネスさん

母親が HIV でなくなった子どもを友達だったアグネスという女性が預かりました。そんな子どもを育てるアグネスもみんなから嫌がられ、避けられ、差別を受けました。しかし希望を失わずに、愛し続け預かったその子は病気が収まり子どもは学校に行けるようになりました。彼女は本当の自分を聖書から知ったから、与えられたことを信じて歩みました。クリスマスは本当の私の価値を教えてください。それは私たちが思うような価値ではなく、本当の価値を教えてください。 「くだらない」羊飼いに本当の姿を教えてくださいました。神様は、底辺にいる人たちに語り掛けます。もし、私たちが今どん底にいて、それを気づくことができれば神様の恵みはそんな私たちから流れていきます。

■ ロシア人青年兵士の祈り

「聞いてください、神様。今まで、僕はあなたに話しかけたことなど一度もありません。けれども、今、あなたに何かを訴えたいのです。子どもの頃から、僕は、あなたなんかいないと聞かされてきました。愚かにも僕はそう信じてきました。今まで一度もあなたのみ業について考えたことがありませんでした。でも、今夜、頭上にきらめく星を眺めていて、人の残酷さに気がつきました。神様、あなたの手を僕の上に置いてくださるでしょうか。とにかく僕はあなたに語りかけ、あなたは分かってくくださる。光が僕に出会うのは別に不思議ではありません。僕はこの呪わしい夜にあなたに直面しています。もう言うべきことはありません。とにかく、あなたを知ることができてうれしいのです。真夜中、僕の隊は出撃の予定です。でもあなたがご覧になっているので怖くはありません。合図です。もう行かなくては。あなたと一緒に幸せでした。もう一つ言わせてください。あなたがご存じのように、闘いは激しく、今晚僕はあなたのドアを叩きに行くかもしれません。今まで、僕はあなたの友ではなかった。それでも今夜、僕が行ったら申へ入れてくださいますか。どうして僕は泣いているのでしょうか。神様、あなたは僕に何が起こったのかお分かりですね。今晚、僕の目は開かれたのです。さようなら、神様。もう行かなくてはなりません。たぶん生きては帰れないでしょう。おかしいのでしょうか、僕はもう死を恐れてはいないのです。」
死は私たちの生き方を顧みることができるようにしてくれます。彼は今まで聖書を知らず、神様のことも知らずに、戦争に出ました、しかし、死の前に最後の最後に目覚め、神様の存在に気づき、死を恐れることなく、その時間と死とまっすぐ向き合うことができました。そして、彼は死にましたがその神様と向き合った時間が残り、私たちに、世界に伝わっています。一人の人が偽りを見出した時、心にある恐れはなくなり、神様の奇跡がなされるのです。

さいごに…

今、自己否定や屈辱の中にあるなら、自分を失敗者だと思ふなら、それを喜んでください。クリスマスがそんな暗闇の中に訪れるからです。その時、今まで私たちの下にあった偽りはいっぺんに取り去られ恐れもなくなります。

心に過去の失敗があるのであれば、クリスマスツリーにその飾りをかけましょう。

キリストにあつてそれすべてが輝く、光に変えてくださいます。

「見よ、闇はこれに打ち勝たなかった」その光に出ていきましょう。

(要約者: 李 雋英)

(2021年12月19日)